



結婚してもずっと仕事をしていきたい。
働く母を見てきて自然にそう思っています。

菊地 理佳 Ayaka kikuchi

工学部技術部機器分析系技術職員

北海道室蘭市生まれ。北海道の国立工業高等専門学校から信州大学工学部物質工学科に編入し、同学部卒業。大学法人採用試験を受け、工学部技術部に就職。

My Life Story

昭和63年北海道生まれ。現在独身。働く母を見て育ったせいもあり、結婚してもずっと仕事はしていきたく、と考えている。学生時代と同じ職場ではあるが、最近、女子トイレにパウダールームができるなど、女性にやさしい環境ができて感動。男子率の高い工学部で女子の存在感を出していきたい。



富士登山にて。
初めての本格登山だったが、いろんなことを経験できた。下界では味わえない景色を眺めるために毎年違う山に登るようにしている。



富士登山口にて。
登る前なのでまだ余裕の表情だが、登るにつれて苦悶の表情になっていく。



大学の同級生との台北旅行にて。
働き始めると予定を合わせるのが難しいが、学生時代の友人とは今でも定期的に出会っている。旅行が好きなので長期休みがあれば計画を立てている。



一台1億円を超える電子顕微鏡をメンテナンス

技術部機器分析系技術職員は、総合研究棟で研究に使う大型装置を管理するのが仕事です。これらの装置は、この学部では必要不可欠な装置ばかりで、いろいろな学科や研究室の方が共同で使っています。私たちは、その大型装置の保守管理や、その装置を使ってより良い研究になるように、学生さんや研究者に技術を提供しているんです。

もちろん機器分析系の人たちみんなで管理しているんですが、たとえば電子顕微鏡などは、1台1億円ぐらいします。1台で部屋半分ぐらいあるような大きな装置なんです。その装置にトラブルがあったりすると、対処に1日かかったりすることもあります。そういうことがない時には自分が勉強したいこともできますし、自由な時もあります。

定時は5時15分ですが、その日の状況によって遅くなることもあり、区切りのいいところまでという6時半ぐらいにはなってしまうですね。それから帰っ

て、たいていは自分で料理してご飯を食べます。朝も自分で作り、昼は学食なので、あまり学生の時と変わりませんね。

状況はどうなってもずっと仕事を続けたい

母はフルタイムで働いていましたから、自分も自然にずっと仕事をしたいんだろうな、と思って育ってきました。20代後半になって、友達との会話も半分ぐらい婚活の話とか合コンの話が出るようになってきました。最近は北海道の母も「そろそろ焦ったほうがいいんじゃない？」なんて言っていますが、私は何事もマイペースなので、結婚も出産も状況しだい。自然体でいいかな、と思っています。

今は、冬はスノーボード、夏はドライブや好きなミュージシャンのライブに行ったりなど、遊びも楽しみたい。遊ぶのは今しかないと思って好きなことをやっています。

まだまだ人生どうなるかわかりませんが、周りの先輩たちの生き方を参考に

しながら、私らしくやっていけたら、と思います。そして老後は北海道に帰りたいですね。信州の冬はほとんど北海道と同じですが、夏はちょっと暑すぎる。将来どんな人生を送るかわからないけれど、何かの形で仕事はしていきたいと思っています。そう思えるのは、ずっと働いて私を育ててくれた母の姿を見てきたからでしょうね。



総合研究棟の2階にあるオフィス。机の上には泡盛「久米仙」のミニボトルと「節約」のスローガン。男臭い工学部ですが、友だちの中では婚活がはじまっています!!